

私は今、総合的な学習の時間で平和学習をしています。そこで私は、ひいおじいちゃんの戦争体験を聞きに行きました。

ひいおじいちゃんは八十歳をこえています。沖縄で戦争があった六十七年前、軍隊でシンガポールなどに大砲の弾を運ぶ仕事をしていました。大砲の弾は船で運ばれ、軍隊の人もいっしょに乗っていたので、船の中では足も伸ばせないほどせまかったそうです。

途中、ひいおじいちゃんの後ろで、大砲の弾を運んでいた人が、弾をひいおじいちゃんの足の上にと落ちてしまい、足のほねを折ってしまったこともあったそうです。

それからしばらくして、アメリカの爆撃がだんだん激しくなってきたので、みんなで別の島にひなんすることになったそうです。そのとき、足がまだ治っていなかったため、仲間たちからは、

「お前はもう生きて帰れない。」
と言われていたそうです。

でも、その仲間たちが船に乗るときや移動するときなどに、ひいおじいちゃんを助けてくれたので、無事に別の島へひなんすることができたそうです。

その後、戦争で負けたことを知らされ、ひいおじいちゃんたちは、行き先の分からない船に乗せられ、そのままねてしまったそうです。

目が覚めたときには、船が沖縄の泡瀬に到着していたので、船から下りて収容所に行き、家族からの

「美里村にいます。」

という伝言がはってあるのを見たそうです。

その伝言をたよりに美里村に行き、無事に家族と再会することができたのですが、ひいおじいちゃんのお父さん、私にとつてのひいひいおじいちゃんは、マラリアという病気にかかってしまい、亡くなってしまっていたそうです。多くの人が家族を亡くしてしまうのが当たり前だったそうですが、ひいおじいちゃんの家族で亡くなっていたのは、一人だけだったのは、きせきに近いですことだと思います。

ひいおじいちゃんの体験を聞いて私は、戦争中なのに、ひなんするときでも船に乗せてくれたり、移動を手伝ってくれたりしてくれたひいおじいちゃんの仲間は、とてもかっこいいなと思いました。

ひいおじいちゃんが生きて帰ってくれたおかげで、私のおじいちゃんが生まれ、おじいちゃんがおばあちゃんと結婚して、私のお母さんが生まれました。

ひいおじいちゃんと、戦争中ひいおじいちゃんを支えてくれた仲間のおかげで、今、おじいちゃんもお母さんも私も生きることができています。

私は、みんながつないでくれたこの命を決してむだにしないで、生きていこうと思います。むだにしないということは、自分で自分を傷つけないこと、みんなで助け合うこと、夢に向かって努力することかなと思います。

今、日本では昔のような戦争はありませんが、世界ではまだ争いや貧困が続いている国がある

そうです。その国の子どもたちは、栄養が足りなくて、うでや足はとても細いのに、おなかはとつても出ていて苦しそうだったり、学校に行けず、毎日ごみ捨て場に行つて、お金になりそうな物を探していたりするそうです。沖縄では、戦争は終わっているけれど、戦争のときの不発弾が今もどこかに残っていたり、基地問題が続いていたりします。

世界はまだ平和ではないのかもしれないですね。

いつか世界中で戦争や争いがなくなり、みんなが笑顔で、おたがい助け合っていける日が来るといいなと思います。私も笑顔で、人を助けてあげられるやさしい人になれるようにしたいです。